

### キリストのへりくだり

(ルカ2:6-11)

#### 一、キリストを何と呼ぶか

【省略】

#### 二、御子イエス・キリスト

教会は、イエスのことを主イエス・キリストとして、また御子イエス・キリストとして信じています。なぜならイエスが人であり神であったことを、神御自身が明らかにされたからです。これを啓示と言いまして、世の中一般で使われている啓示とは異なります。覆われていた覆いが除かれることだからです。だれが覆いを除いたのでしょうか。神御自身です。すなわち、父・子・聖霊にして唯一なる神です。そして啓示において、中心的な働きをされたのは御子であるイエス・キリストです。

では、私共に神を解き明かしてください。御子イエス・キリストは(ヨハ1:18)、どのようなお方なのでしょう。きょう開かれているテキストを見てまいりましょう。6節と7節前半までです。キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、**「自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。」**とあります。神の御

姿とは「神のかたち」のことです。ちなみに、「神のかたち」と訳しているのは文語訳、口語訳、そして聖書協会共同訳です。「神のかたち」を使いますと、創世記1章26節の**「神は仰せられた。」**

「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造らう。」との絡みで読むことができるので、良いと思うのですが・・・。フランシスコ会訳は**「キリストは神の身でありながら、」**です。これも良いですね。新共同訳は**「キリストは、神の身分でありながら、」**です。**「神の身分」という訳語は、あまりいただけないですね。**

要は、キリストは神なのです。そうであるなら、人として生まれられる前から神です。キリストは、神という地位を獲得したのではなく、はじめから神なのです。天地万物を創造された神です。「え?! 万物を造られたのは父なる神だったのではないですか」などと思わないでください。ヨハネの福音書が語っています。**「1・3すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。」**と。**「この方」とは、人として来られる前のキリストです。**

6節の後半を見てまいりましょう。**「神としてのあり方を捨てられないとは考えず」と**あります。**「神としてのあり方」**は、やや分かりにくいですが、新改訳2017は、脚注に直訳として「神

と等しくあること」と記しています。ちなみに**「神と等しくあること」と**訳しているのは文語訳、口語訳、聖書協会共同訳です。そのまま訳した方が分かりやすいと思います。6節の続きの**「捨てられないとは考えず、」**ですが、脚注に直訳として「固執すべきことは(考えず)」と記しています。新改訳以外の多くの訳が「固執しようとは思わず」として

います。私たちが聖書から教えられる神は、キリストは、神と等しくあることに固執するようなお方ではないので、新改訳2017のように**「捨てられないとは考えず、」**の方が良いと思います。7節前半を見てまいりましょう。**「自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。」**とあります。

要は、父のふところにおられるひとり子の神が(ヨハ1:18)、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、罪しながらみの中にある人間となって生まれました。そして8節にありますように**「自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」**このお方を救い主にして神と信じているのが教会です。

そして9節です。**「それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。」**とあります。

#### 三、キリストに学ぶ

教会が救い主、また神と信じている

イエス・キリストは、以上のようなお方です。私たちが人間社会で使っていることばを用いるなら、徹底的に良いお方です。自らを犠牲にして人に仕えることに、ためらわないお方です。

きょうの説教題は「キリストのへりくだり」ですが、御子イエス・キリストが罪人を救うために一所懸命にへりくだったとか、そういうレベルのことではありません。イエス・キリストの公生涯に、神の御思いが現れています。イエス・キリストの御姿とは、神のご性質そのものです。

マタイの福音書11章29節で、主イエス・キリストは御自身の姿を次のように表現されています。**「わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たまたみに安らぎを得ます。」**と。私たちがキリストに学ぼうと思つたら、主イエスがなさった数々の行いに学ぶというよりも、私たちが自身が小さいキリストになることです。そして御霊なる神の働きに与って、主と同じかたちに変えられて行くことです。

私たちの生涯の目標は、キリストに似ることです。そのためには、もう一度申しますが、一つ一つ主イエス・キリストの真似をするのも良いですが、限定的です。日々聖霊によって、主と交わることです。